



鹿児島市立和田小学校 学校だより

# 6月号 七ツ島



令和5年6月28日発行



## わずか3秒でできること

校長 池田 浩

全校朝会で、「和田っ子三つの約束」の一つである「はきものそろえ」について、写真やイラストを基に話をしました。

6年生のある学級の子供たちに、「なぜ履物を揃えた方がいいと思いますか？」という質問をしたところ、次のような回答をしてくれました。どれも正解だと思えます。

「『服装の乱れは、心の乱れ』と言われるように、靴も服装の一つだから。」 「だらしない学校にしたいくないから。」 「学校の雰囲気よくなるから。」 「学校全体がきれいに見えるから。」 「汚く見るといやだから。」 「靴以外の身だしなみもよくなるから。」 「トイレのスリッパなど、次の人が使いやすいようにするため。」 「家や社会に出てからきれいに揃えられるようにするため。」 「お客さんや周りの人の気持ち（気分）が、よくなるから。」 「心が落ち着くから。」 「心がきれいになるから。」 「心が整ってくるから。」

「履物を揃える」というのは、わずか3秒でできることです。

この3秒でできることを毎日、しっかりとできる人は、他のことにも気を配れる人です。次の行動への構えができています。

でも、たった3秒でできること、みんな履物を揃えようと目標を立てているのにできない人、できないというより、できるはずなのにしない人は、他のことも中途半端になってしまいます。

本当に簡単な、たった3秒でできることですが、それを毎日続けること、そして、靴をぼんと置いてそのまま立ち去ったり、トイレのスリッパを使いっぱなしで出て行ったりするのではなく、もう一度振り返って、靴やスリッパを見つめる。そうした習慣を身に付けることで、きっと他のことにも気を配れるようになります。思いやりがもてるようになります。気持ちを集中させることができるようになります。

「履物を揃える」という小さなことが続けられれば、きっと傘棚やかばん棚もきれいになると思います。教室もきれいになってきます。環境が整えば、きっと勉強にも集中できるようになってくると思います。ちょっとしたことでも真剣に、そして、続けて取り組めば、他のことにも波及してくると思います。

「形は心」という言葉がありますが、「履物を揃える」という目に見えることに、実は「人の気持ちや心」が表れているのです。

右の詩は、長野県篠ノ井町の円福寺の藤本幸邦（こうほう）和尚が作られたものです。永平寺というお寺の開祖である道元禅師（ぜんじ）は、「自分の履物を揃えられないような者に何ができるか、まず履物を揃えることから修行をなさい。」と言われたそうです。

私が、27・28年前に出会った言葉ですが、藤本和尚は、次のようなことも言われています。



【円福寺より転載許可済】

「どんなに大きな願いも、まず自分から、そして自分の足元から始めなければなりません。」

「誰かのはきものが乱れていたなら、黙ってそっと揃えてあげられるような人こそが、本当に思いやりのある人なのだと思います。」

「そんな人が一人でも増えれば、そんな子供がたくさん育てば、世の中は、もっともっと素敵なものになるでしょう。」

「だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう。」なんて思いやりのある行動でしょう。

「はきものそろえ」は、いつからでも始められる身近で簡単なことです。当たり前のことを当たり前にするという行為です。

この些細なことを毎日毎日続けていけば、きっと和田小学校の子供たちの心も揃います。形

を揃えることで心も整ってきます。まずは、自分の靴を脱いだら、かかとを揃えて靴箱に置く。そして、トイレでは、後から来る人のために自分の使ったスリッパを揃える。できたら、脱ぎっぱなしのスリッパも黙ってそっと揃えてあげる。

わずか3秒でできる思いやりの習慣が、「はきものそろえ」です。履物を揃えて、行いを振り返る習慣、心を整える習慣を身に付けてほしいと願っています。